



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

記者発表資料  
平成22年8月3日  
(担当)せんだいメディアテーク  
企画・活動支援室(薄井)  
(電話)713-4483

## アートプロジェクト「せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト」で作成した ご当地ソング「せんだいドドンパ節」の発表会を開催します

せんだいメディアテークでは、開館10周年事業「せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト」<sup>(注1)</sup>で作成したご当地ソング「せんだいドドンパ節」を、下記のとおり発表いたします。

独自に開発した人工音声の「高音(たかね)キン」<sup>(注2)</sup>が、その名の通り、人間にはありえない高い少女の声でキーンキン歌います。

また、プロジェクトでは今後、このご当地ソングに合わせて踊りを練習し、みちのくYOSAKOIまつりに参加します。

発表会当日は、踊りの参加者ミーティングも公開で行いますので、参加希望者はぜひ見学にお越しください。

### 記

- 1 会場 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
- 2 日時 8月8日(日) 13:00~15:00  
入場無料、直接会場へお越しください
- 3 主催 せんだいメディアテーク
- 4 ホームページ <http://www.smt.jp/formant/news/>

#### (注1) せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト

社会に偏在する「バリア」について考える開館10周年事業「いま、バリアとはなにか」のひとつとして実施する企画が、「せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト」です。

フォルマント兄弟(三輪真弘+佐近田展康)※が、東北の民謡を取材して作曲した仙台の新しいご当地ソングを機械に高らかに歌わせるこのプロジェクトでは、現代の都市において「祭り」とは何か?そこに芸術やテクノロジーはどう関わっていけるのか?といった深い問題を実際に祭りへ出場するなどの実践を通して考えながら、市民がアーティストの作品制作に参加して、仙台の新しい民謡と踊り、そのための衣装やマスコットキャラクターなどを協働で作出し、発表していきます。

※テクノロジーと芸術の今日の問題を「声」を機軸に哲学的、美学的、音楽的、技術的に探求し、21世紀の「歌」を機械に歌わせることを目指すユニット。

#### (注2) 高音(たかね)キン

せんだいめでいあヲどりプロジェクトにおいて、制作されたご当地ソングを歌わせるため、コンピュータで人工的に音声を合成。その人工音声に「高音キン」と名付けた。

#### 5 その他

8月28日東京、サントリーホールにて行われる「サントリー芸術財団サマーフェスティバル2010<MUSIC TODAY21>芥川作曲賞創設20周年記念ガラ<室内楽II>受賞作曲家20人の独奏曲Part II」にて、今回このプロジェクトで制作された楽曲が演奏されます。